



資料 1

いきいき雪国やまがたづくりに向けた これまでの取組みについて



第3回 いきいき雪国やまがた県民会議

平成30年6月18日





山形県雪対策行動計画（H29～H33）

『いきいき雪国やまがた』を目指し、以下のテーマ・施策に基づき、各種の克雪・利雪・親雪の取組みを推進

テーマⅠ 雪の魅力を最大限に活かした雪国づくり

施策

- (1) 雪国の歴史・文化への誇りと愛着の醸成（雪に親しむ地域活動・教育の推進 等）
- (2) 「雪国やまがた」のブランド化による冬の観光誘客の拡大（雪祭り・冬季イベントの拡充 等）
- (3) 雪を活かした地域産業の振興（雪に関する技術・製品の開発促進 等）

テーマⅡ 「住んでよし」の安全・安心な雪国づくり

施策

- (1) 除排雪体制の強化（地域除排雪体制の充実、雪下ろし担い手の確保 等）
- (2) 暮らしの快適性の向上（克雪住宅等の普及拡大、冬期間の空き家対策の推進 等）
- (3) 安全・安心意識の向上（普及啓発等の推進、降雪予測等の情報提供 等）

テーマⅢ 雪国の暮らしを守る基盤整備

施策

- (1) 快適な歩行空間の確保（無散水消融雪施設の整備、県道における流雪溝の整備 等）
- (2) 雪に強い道路交通の確保（防雪柵・雪崩防止施設の整備、信号機の着雪防止対策 等）
- (3) 防災に係る基盤整備及び防災体制の確立（豪雪時の関係機関との連携・協力体制 等）



テーマⅠ 雪の魅力を最大限に活かした雪国づくり

1. 取組方向

(1) 雪国の歴史・文化への誇りと愛着の醸成

- ・雪に親しむ地域活動・教育の推進（やまがた雪文化マイスターの認定・活用 等）
- ・県民への情報発信の強化（ウェブサイトによる雪の利活用等に向けた情報発信 等） 等

(2) 「雪国やまがた」のブランド化による冬の観光誘客の拡大

- ・雪祭り・冬季イベントの拡充（やまがた雪フェスティバルの開催 等）
- ・冬の魅力の創出と発信の強化（東北各県との連携による冬の魅力の情報発信 等） 等

(3) 雪を活かした地域産業の振興

- ・雪氷熱の利活用促進（雪氷熱の有効活用に向けた研究 等）
- ・雪に関する技術・製品の開発促進（技術面の相談や補助金による支援 等） 等

2. 現状（H29）

- ◎ やまがた雪文化マイスターの認定数 **21件**／計画：20件
- ◎ 冬期イベント入込数 **800.5千人**／計画：769.7千人
- ◎ 外国人旅行者受入数 **19万人**／計画：18万人
- ◎ 雪氷熱を利活用した取組件数 **3件**／計画：3件
- 雪関連の技術・商品の開発件数 3件／計画：4件



いきいき雪国やまがたづくりに向けたこれまでの取組みについて

① やまがた雪文化マイスターの認定（県民会議の取組み）

やまがたの未来を担う子どもたちに、雪国の文化や冬の楽しさを伝える人材を「やまがた雪文化マイスター」として認定し、活動の普及促進を図るとともに、雪に親しむ機運の醸成を推進。

○ 認定件数：H29.3月:12件 ⇒ H30.3月:21件（15団体、6個人）

○ 認定マイスターの主な活用実績

- ・ 新聞やフリーペーパー等に活動内容を掲載
- ・ 「国連世界観光会議」「やまがた雪フェスティバル」にて作品展示や、ワークショップのブース設置



高橋伸一氏（真室川町）
藁細工作品の作り方を教えている様子



雪の学校実行委員（小国町）
雪山ハイキングの様子



フリーペーパーにおける
マイスター紹介



いきいき雪国やまがたづくりに向けたこれまでの取組みについて

やまがた雪文化マイスター一覧

★ : H29新規

団体（15団体）

No	団体名	市町村	活動内容
1	市野々集落	尾花沢市	山刀伐(なたぎり)峠かんじきツアー
2	清流と山菜の里ほその村	尾花沢市	冬山トレッキング、メープルサップ採取体験
3	愛宕神社裸参拝実行委員会	尾花沢市	愛宕神社裸参拝(毎年1月に、裸参拝を実施)。
4	いぬかわ振興協議会	川西町	農地を活用したスノーモービル体験。
5	鳥海やわたインタープリター協会	酒田市	冬山トレッキングなど自然体験活動。
6	藁細工SAKICHIL	新庄市	藁細工作品の制作・伝承(ぞうり、じんべ等の藁細工の作成)。
7	大石田町アウトドアクラブ遊Be隊	大石田町	スノーシュートレッキングの開催。★
8	新庄市グリーンツーリズム推進協議会	新庄市	「雪国ワンダーランド」における冬のアクティビティの実施。★
9	Oh! 蔵SPORT	大蔵村	雪を掘る速さを競う「地面出し競争 WORLD CUP」開催。★
10	真室川町スポーツツーリズム実行委員会	真室川町	雪国文化に着目したスポーツ競技「ホワイアスロンワールドカップ」の開催。★
11	梅の里 雪遊会	真室川町	スノーモービル体験の実施。★
12	雪の学校実行委員会	小国町	雪山でのハイキング行う「雪の学校」の開催。★
13	小玉川青年団 イチコロ	小国町	雪の巨大迷路等を楽しむイベント「雪の中の大冒険」の開催。★
14	西置賜ウインタースポーツ振興会	長井市	スノーモービル体験の実施。★
15	遊佐町鳥海山観光ガイド協会	遊佐町	鳥海山の氷柱を巡るスノートレッキングの実施。★

個人（6名）

No	氏名	職業	市町村	活動内容
1	叶内 周	会社員	新庄市	里山を活用した冬のアクティビティ(雪像づくり、かまくらづくり・宿泊、スノーモービル等)。
2	松原 英俊	鷹匠	天童市	鷹匠としての自然体験活動(鷹とともに歩く雪山トレッキング、冬山・雪山の登山ガイド)。
3	高橋 伸一	農業	真室川町	藁細工作品の制作・伝承(ぞうり、じんべ等の雪国民具をはじめとする藁細工、県内外でのワークショップ開催)。
4	加藤 真一	会社役員	米沢市	冬山トレッキング(春間近な時期に堅雪の上をトレッキング)。
5	清野 真由美	旅館勤務	西川町	月山和紙を活用した工芸品の作成(「月山和紙」を活用したランプシェード(灯り)の作成・展示、ワークショップの開催)。
6	佐藤 道信(小国わかさぎ会)	会社員	小国町	わかさぎ釣り体験の実施。



② いきいき雪国やまがた情報サイトによる情報発信（県民会議の取組み）

安全・安心に対する意識の向上、雪の魅力の再認識、雪の利活用の促進に向けた情報を幅広く発信。

U R L : <http://ikiikiyukiguni-yamagata.com/>

< 主な掲載情報 >

- 安全・安心に対する意識向上
 - ・安全な除排雪の実践に関する情報
 - ・やまがた除雪志隊の活動情報
- 雪の魅力の再認識
 - ・やまがた雪文化マイスターの活動情報
 - ・冬期間のイベント情報
- 雪の利活用の促進
 - ・雪室等の雪氷熱利用の事例紹介
 - ・雪関連のお土産菓子の紹介
- その他、レポート
 - ・マイスター企画イベント、その様子 等



情報サイトページ



HP掲載事例（雪氷熱）
 「利雪型貯蔵庫」（舟形町）
 ・雪の冷却エネルギーにより
 玄米を保管



HP掲載事例（お菓子）
 「雪玉 白っ娘（はっこ）」
 （酒田米菓）
 ・雪玉をイメージして開発



③ イベントの開催と雪の魅力の普及啓発（県民会議の取組み）

H29取組強化

UNWTO 雪と文化の世界観光会議の開催

世界各国の観光関係者等が集まる国連世界観光会議の開催を通じ、世界に向けて山形県の雪国文化の多様性等を発信。インバウンドの拡大に繋げる。

- 開催日：平成30年2月1日（木）～3日（土）
 - 会 場：山形国際交流プラザ 等
 - 雪国PRブースの開設
 - ・やまがた雪文化マイスターの作品（藁細工の工芸品）を紹介
 - ・冬季のイベントや観光地を英語訳付のパネルで紹介
- ⇒ 国内外の多くの参加者がブースを訪れ、関心を示していた。
雪国文化が観光素材として高い可能性を有することを確信。



やまがた雪フェスティバルの開催

県内各地で開催される様々な雪祭り等のオープニングイベントとして開催。

- 開催日：平成30年2月2日（金）～4日（日）
 - 会 場：最上川ふるさと総合公園（寒河江市）内
 - やまがた雪文化マイスターのワークショップ・雪国PRブースの出展
 - ・藁細工を使った「しおり」の作成体験
 - ・月山和紙を使ったメッセージカードの作成体験 等
- ⇒ 親子連れを中心に多くの参加者を得た。
雪国文化（雪）の魅力の再認識へと繋がった。





いきいき雪国やまがたづくりに向けたこれまでの取組みについて

③ イベントの開催と雪の魅力の普及啓発（県民会議の取組み）

雪国山形の文化や冬季イベントの紹介パネル（英訳）の展示（国連会議・雪フェス）

Straw Crafts Culture in the Snow Country

雪国に伝わるワラの文化



Rice cultivation in Yamagata Prefecture has flourished since antiquity, thanks to its abundance of nature, water, and fertile soil. From the harvested rice plants comes much straw. Farmers of old would make items essential for daily life by hand from this straw, during the snowy winter months when they were unable to work in the fields. The ways straw can be used are various - from clothes and sandals to baskets - and our ancestors were filled with knowledge of straw crafts. For those who live in the Snow Country, straw is not only one of the most important materials for daily life, but also a way in which our rich culture has been cultivated through the ages.

雪国では、稲作が古くから盛んであり、豊かな自然、水、肥沃な土壌のおかげで、稲作が古くから盛んであります。稲作から収穫された稲穂からは、多くのわらが生じます。昔の農家は、このわらを使って、日常生活に欠かせないさまざまな道具を手作業で作っていました。雪の多い冬は、田畑で働くことができません。この時期にわらを使った道具は、生活に欠かせないものでした。雪国の人々にとって、わらは生活の必需品であり、また、豊かな文化が育まれてきた重要な材料です。

Modern Transmission of Snow Country Culture

現代における雪国文化の発信



Straw crafts culture has become more popular than ever thanks to modern artisans. As well as tools like straw shoes and straw brooms which were once useful for life in the Snow Country, interior items such as ornaments in the shape of animals and stars also enrich our lives.

In Yamagata Prefecture, people who pass on the Snow Country's culture and the delights of winter through arts such as straw crafts are recognized as "Yamagata Snow Culture Masters".

現代では、現代の職人のおかげで、わら工芸文化がますます人気を博しています。雪国でかつて有用だったわら草鞋やわら箒だけでなく、動物や星の形などの装飾品などのインテリア品も、私たちの生活を豊かにしています。また、雪国文化や冬の楽しさを芸術を通して伝える活動が、雪国文化マスターとして認められています。

Jimen-Dashi Race Okura Village

地面出し競争 大曲村



The "Jimen-Dashi Race" is a famous competition in one of the snowiest regions of Yamagata Prefecture with 30 years of history, starting from winter sports days at the old Hijiori elementary and middle school.

Due to the school's closure in 2009, "Oh! Kura Sport" took up the mantle of hosting the "Jimen-Dashi Race World Cup in Hijiori", starting from 2010. 2018 marks its ninth race, with participating teams increasing in number each year.

The objective of the race is to be the fastest to dig snow until you reach the ground. Using shovels and snow scoops, contestants have to dig through snow as high as four meters to reach the ground below. It may seem like a simple concept, but the competition can become intense. You can discover the hidden depths of this sport yourself if you give it a go!

大曲村には、雪が降り積もる地域であり、30年以上の歴史を持つ「地面出し競争」が有名です。この競技は、雪を掘り抜いて地面に到達する速さを競います。スコップや雪鍬を使って、4メートルの高さの雪を掘り抜く必要があります。一見簡単ですが、競争は非常に熱戦になります。ぜひこの競技の奥深さを体験してみてください。

Uesugi Snow Lantern Festival Yonezawa City

上杉雪灯籠祭まつり 米沢市



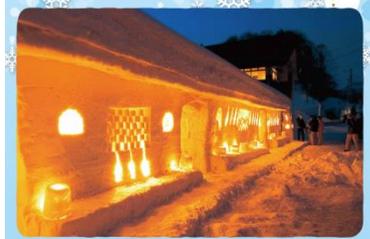
The Uesugi Snow Lantern Festival, which many tourists visit annually, marks its 41st anniversary this year. The Uesugi Snow Lantern Festival has become known as an event representative of winter in Yonezawa. With 300 large snow lanterns and 1,000 smaller snow lamps, the venue is surrounded by the soft glow of candles. Shopping districts and houses are also decorated with these lanterns and lamps, lighting up the whole city.

The Uesugi Snow Lantern Festival takes place every year on the second weekend of February. Why not spend a night in the snow country, basking in a magical world amongst these snow lanterns?

毎年2月、雪国を代表するイベントとして、多くの観光客が訪れる上杉雪灯籠祭まつりが、今年で41周年を迎えます。米沢市では、雪国文化を代表するイベントとして知られています。300個の大型雪灯籠と1,000個の小型雪灯籠が、会場を柔らかいろうそくの光で包み込みます。また、商店街や家々にも雪灯籠や灯籠が飾られ、街全体が光り輝きます。

Yukihatago Illumination Nishikawa Town

雪旅籠の灯り 西川町



The Nishikawa Town Shizu Onsen of old, which flourished as an inn town for pilgrims to the Three Mountains of Dewa, is brought back to life using snow.

The Yukihatago Illumination started with the idea of using the six meters of snow that winter brings in this region to create an event that is uniquely Nishikawa. The graceful townscape, lit up by the warm light of candles in the night, brings forth a magical atmosphere. Aside from the artistry applied to the Hatago, one can also enjoy beverages such as hot wire at a bar made of snow and ice located inside.

This festival has received national attention, winning awards such as the "National Furusato Evert Award", "Second Yanagata Regional Development Landscape Award" and the "2012 Yamagata Yuki Mizai Award".

雪国文化を代表するイベントとして、多くの観光客が訪れる上杉雪灯籠祭まつりが、今年で41周年を迎えます。米沢市では、雪国文化を代表するイベントとして知られています。300個の大型雪灯籠と1,000個の小型雪灯籠が、会場を柔らかいろうそくの光で包み込みます。また、商店街や家々にも雪灯籠や灯籠が飾られ、街全体が光り輝きます。

やまがた雪文化マイスターによるワークショップの様子（雪フェス）



高橋伸一さん（真室川町）のWS



藁細工SAKICHIL（新庄市）のWS



せいのまゆみさん（西川町）のWS



④ 雪の利活用セミナーの開催（県民会議の取組み）

H29新規

雪に対するマイナスイメージの払拭と、雪を活かした地域産業振興につなげるため、雪の利活用拡大に向けたセミナーを開催。

- 開催日 平成29年12月7日（木）
- 場 所 県庁2階講堂
- 内 容

講演「利雪最前線2017－雪を味方に、雪を活かす－」
（講師：雪だるま財団 伊藤親臣）

事例発表

- ・「雪室を活用した食材の統一ブランド『越後雪室屋』について」
（にいがた雪室ブランド事業協同組合）
 - ・「西和賀デザインプロジェクト『ユキノチカラ』について」
（岩手県西和賀町役場）
 - ・「雪室利活用による高付加価値型農業の取組みについて」
（有限会社中津川エフエフ）
- 参加者 56名
（行政関係者、商工関係者、建設業関係者 等）



雪だるま財団
伊藤親臣氏

セミナーの様子





テーマⅡ 「住んでよし」の安全・安心な雪国づくり

1. 取組方向

(1) 除排雪体制の強化

- ・ 地域除排雪体制の充実（地域共助による除排雪への支援、広域除雪ボランティアの活動推進 等）
- ・ 雪下ろし担い手の確保（「雪下ろし有償ボランティア」の普及 等） 等

(2) 暮らしの快適性の向上

- ・ 克雪住宅等の普及拡大（克雪化に向けた住宅リフォームへの支援、融雪型克雪住宅の普及 等）
- ・ 冬期間の空き家対策の推進（市町村が行う空き家除排雪への支援 等） 等

(3) 安全・安心意識の向上

- ・ 普及啓発等の推進（安全な雪下ろし・除雪作業等の普及啓発活動の実施 等）
- ・ 降雪予測等の情報提供（雪情報システムによる降雪予測等の情報提供 等） 等

2. 現状（H29）

- ◎ やまがた除雪志隊登録者数 **873名**／計画：800名
- ◎ 雪に強い住宅リフォーム補助件数 **1,374件**／計画：1,200件
- 新たな雪下ろしの担い手の確保に取り組む市町村数 2団体／計画：4団体
- 昨冬の豪雪による雪害事故 170件（H28：92件）
うち死亡件数 16件（H28：5件）



① 雪害事故防止キャラバン出発式の開催（県民会議の取組み）

H29新規

本格的な降雪期を前に、雪害事故防止を広く県民に周知し、県民総ぐるみの運動となるよう機運醸成を図った。

- 開催日 平成29年12月7日（木）
- 場 所 県庁舎前県民緑地広場
- 参加者 県、市町村及び県民会議構成団体等、関係者約100名参加
- 内 容
 - ・ 雪害事故防止宣言
（除雪ボランティア団体代表1名、県民生委員児童委員協議会副会長1名による）
 - ・ 広報物品交付式（上記の宣言者2名へ知事から広報物品（のぼり・チラシ）を交付）
 - ・ 広報車出発式



広報物品交付式の様子



広報車出発式の様子



H29取組強化

② 雪害事故防止週間の設定と集中的な啓発活動の実施（県民会議の取組み）

過去10年間の雪害事故の発生状況等を踏まえ、「雪害事故防止週間」を設定し、安全な除排雪に係る集中的な広報活動を実施。

昨冬は豪雪の発生により期間を延長し、取組を強化した。

当初：1月19日（金）～2月4日（日）（17日間）

⇒ 2月28日（水）まで延長（41日間）

※延長は初めて

< 雪害事故防止週間中の主な取組み >

- イベント会場や商業施設における啓発
 - ・ やまがた雪フェスティバルにて啓発活動 **【新規】**
 - ・ ホームセンターやスーパーにて啓発活動 等
- 市町村や関係団体の広報誌による啓発
- テレビやラジオによる啓発
 - ・ 地上デジタルデータ放送（1月9日～2月23日）
 - ・ 県政ラジオ（1月22日～2月23日）
- 高齢者等への注意喚起を促すチラシの作成 **【新規】**



高齢者等へ注意喚起を促すチラシ



いきいき雪国やまがたづくりに向けたこれまでの取組みについて

② 新聞・フリーペーパーによる集中的な普及啓発活動の実施（県民会議の取組み）

県民に身近な新聞とフリーペーパーを活用し、安全な除排雪等について幅広く発信。

H29新規

山形新聞掲載広告

< 新聞 >

山形新聞で、安全な除排雪作業のポイント、雪害事故防止週間の設定について全5段広告で掲載。（掲載日：12月30日）

雪への準備 心構えは万全ですか?!

雪国やまがた 親しむ 雪文化マイスター

安全な雪下ろし作業7つのポイント

山形県雪情報システム

こちら防災やまがた!

雪への準備 心構えは万全ですか?!

安全な雪下ろし作業7つのポイント

体調管理は万全に!

< フリーペーパー >

- 地域みっちゃんく生活情報誌あずまーる（置賜等をカバー）
 - ・安全な除排雪作業のポイント、雪害事故防止週間の設定について掲載（掲載日：1月20日）
- 季刊にやー（最上等をカバー）
 - ・安全な除排雪作業のポイントについて掲載（掲載日：12月4日）

フリーペーパー掲載 啓発表示

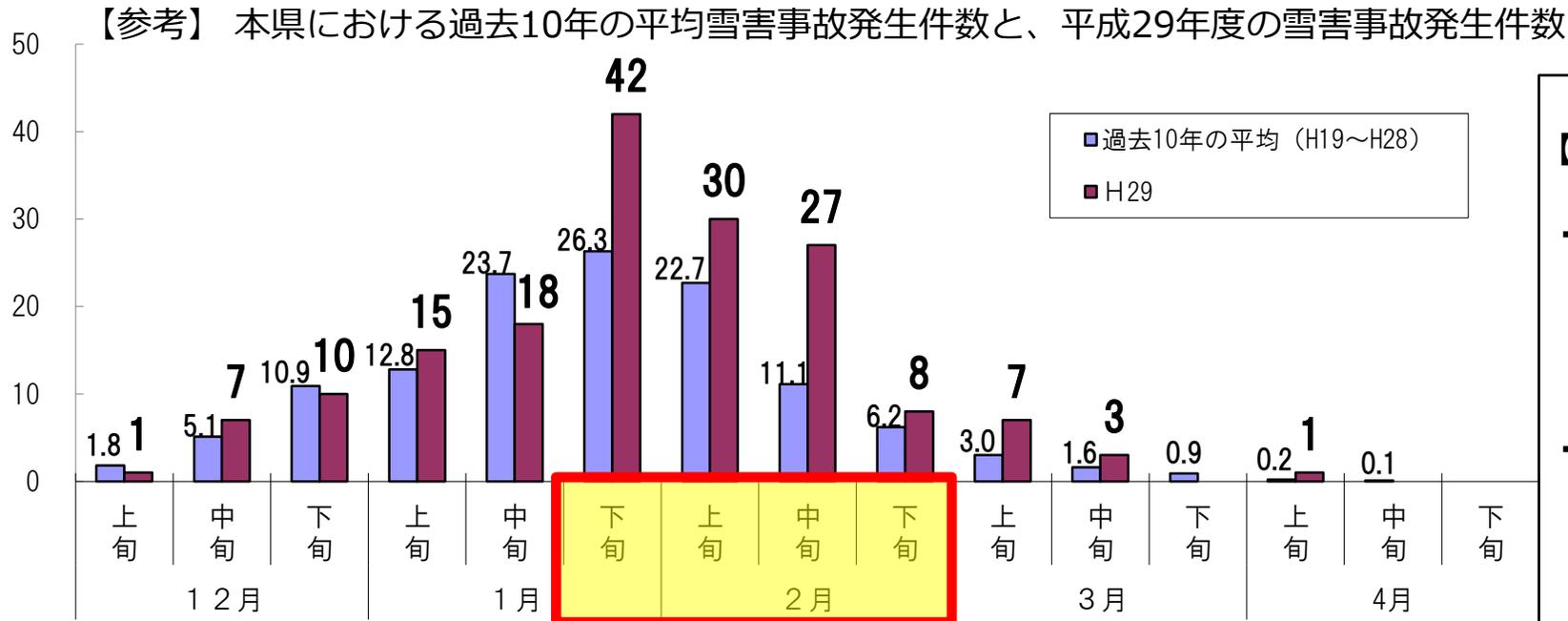
③ 山形県雪情報システムの運用

県内12地点におけるきめ細やかな降雪予測情報や、気象庁発表情報等を提供

- 運用期間 平成29年11月13日（月）～平成30年3月31日（土）
- 閲覧件数（H29） 388万件



昨冬の雪害事故の発生状況、今後の課題



【参考】昨冬の状況

- ・1月下旬は冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流れ込んだため、広い範囲で大雪
- ・1~2月の月平均気温は、例年より低い。

(山形地方気象台より)

雪害事故防止週間

- ・例年以上の積雪量や低温等により、雪害事故件数が急増。
- ・除排雪作業中の死亡事故が倍増 (H28:5件 ⇒ H29:16件)。特に、65歳以上の高齢者が大半を占めた (14件、全体の87.5%)。

○ 課題

昨冬の豪雪も想定した効果的な普及啓発を行い、雪害事故の発生を抑制することが必要。



④ 地域の除排雪等への支援

少子高齢化、人口減少に対応して、地域の除排雪の担い手、又は要援護者世帯の除排雪の担い手（協力者）を確保するため、以下の施策を主に実施。

- I 雪対策総合交付金による効果的な雪対策の推進
- II 広域除雪ボランティア「やまがた除雪志隊」による除雪活動
- III 雪下ろし有償ボランティア普及モデル事業の実施

④－I 雪対策総合交付金による効果的な雪対策の推進

地域の実情に的確に対応した雪対策を推進するため、市町村が計画的に実施するハード・ソフト両面からの取組みを幅広く支援。

- H29交付実績 75,492千円（全35市町村が活用）
- 市町村の主な取組み
 - ・ 要援護者宅の除排雪への支援
 - ・ 空き家の屋根の雪下ろし・除排雪
 - ・ 自治会等が行う地域一斉除排雪への支援
 - ・ 地域の共助による除排雪に必要な資機材の整備 等



地域の除排雪活動の様子



④ - II 広域除雪ボランティア「やまがた除雪志隊」による除雪活動

地域における除排雪の担い手確保のため、県内外から幅広く除雪ボランティアを募り、「やまがた除雪志隊」として登録し、広域的な除雪活動を推進。

(除雪志隊の交通費や宿泊費等の活動経費を助成)

- 登録者数 H29.3月:727名 ⇒ H30.3月:873名
- H29年度の活動状況
 - ・ 除雪活動が10回開催され、105名が参加。



除雪活動の様子
(尾花沢市)

④ - III 雪下ろし有償ボランティア普及モデル事業の実施

雪下ろしの担い手を確保し、雪害事故の最も大きな要因である屋根からの転落事故防止を図るため、高齢者等に代わって雪下ろしを行う有償ボランティアの仕組みを市町村との連携により構築。

- 実施市町村 朝日町、庄内町 **※いずれもH29新規**
- 主な実施内容
 - ・ 雪下ろし講習会等による担い手の確保・育成。
 - ・ 有償ボランティア団体（4団体）の雪下ろし活動（17回）を支援。 ※2町合計



雪下ろし講習会の様子
(朝日町)



テーマⅢ 雪国の暮らしを守る基盤整備

1. 取組方向

(1) 快適な歩行空間の確保

- ・ 中心市街地における無散水消融雪施設の整備
- ・ 県道における効率的な排雪に向けた流雪溝の整備 等

(2) 雪に強い道路交通の確保

- ・ 雪崩や地吹雪等による交通障害を防止するための防雪柵及び雪崩防止施設等の整備
- ・ 信号機への着雪防止及び凍結防止対策の実施 等

(3) 防災に係る基盤整備及び防災体制の確立

- ・ 雪崩災害の発生の防止に向けた危険箇所の監視及び雪崩防止施設等の整備
- ・ 豪雪時における関係機関との連携・協力体制の構築及び災害救助法の迅速な適用

2. 現状 (H29)

- ◎ 無散水消融雪施設の整備延長 **1.1 km** / 計画 : 1.1km
- ◎ 押しボタン式信号機のタッチセンサー化 **1,402個** / 計画 : 1,380個
- 県道における流雪溝の整備延長 108.7km / 計画 : 109km
- 堆雪幅が確保された道路の整備延長 700.1km / 計画 : 703.9km
- 車両用信号機着雪防止対策の実施 2,215灯 / 計画 : 2,250灯



今年度のいきいき雪国やまがた県民会議の主な取組み（予定）

- 冬期間の誘客の推進等のため、やまがた雪文化マイスターの活動等、利雪・親雪の取組みを更に発掘・発信 **【取組強化】**
- インバウンド効果の推進のため、いきいき雪国やまがた情報サイトを多言語化 **【新規】**
- 雪の利活用セミナーの開催
- 雪害事故防止キャラバン出発式の開催
- 雪害事故防止のため、より効果的な、新たな普及啓発手段を実施 **【取組強化】**



いきいき雪国やまがたづくり宣言

すべての県民が安心して暮らし、雪国ならではの文化や雪まつりなどを楽しみ、国内外から多くの人々が訪れる「いきいき雪国やまがた」を創り上げていくため、以下の取組みを進めます。

- 1 雪の持つマイナス面を受け止め、協力し支えあいながら、雪とともに暮らしていきます。
- 2 先人が育んできた雪国の豊かな文化や精神性を誇りに思い、未来に向けて磨き上げていきます。
- 3 雪を地域の魅力や資源としてプラスに捉え、雪国ならではの産業振興と地域活性化に繋げていきます。

平成28年11月25日
いきいき雪国やまがた県民会議



参考) いきいき雪国やまがた県民会議設置要綱

(設置の目的)

第1条 県民の雪に対する発想の転換を促し、雪の利活用の拡大による地域活性化に向けた県民の機運を高めていくため、いきいき雪国やまがた県民会議（以下「県民会議」という。）を設置する

(所掌事項)

第2条 県民会議の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 安全、安心に対する意識向上のための情報発信及び普及啓発
- (2) 雪の魅力を再認識するための情報発信及び普及啓発
- (3) 雪の利活用の促進に向けた情報発信及び普及啓発

(組織)

第3条 この県民会議は、山形県及び別記の団体等をもって構成する。

- 2 県民会議に会長を置き、山形県知事をもって充てる。

(会議)

第4条 県民会議の会議（以下「会議」という。）は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

- 2 会長は、必要と認めるときは、会議に前条第1項に掲げる以外の団体等を出席させることができる。

(事務局)

第5条 県民会議の事務を処理するため、事務局を山形県企画振興部市町村課に置く。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、県民会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年11月25日から施行する。



別 記

団体等の名称
山形県市長会
山形県町村会
社会福祉法人山形県社会福祉協議会
公益社団法人山形県観光物産協会
山形県商工会議所連合会
山形県商工会連合会
公益財団法人山形県企業振興公社
国立大学法人山形大学工学部
国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所
山形県青少年教育施設協議会
特定非営利活動法人クリエイトひがしね
新庄市雪の里情報館